

屋久島農業普及だより

[編集発行]

屋久島事務所農林普及課農業普及係

屋久島町安房650 TEL:0997-46-2236 FAX:0997-46-3384

写真でつづる 普及活動 この1年

今年度は、令和元年～5年の5年間の中期計画に従って、後述する4つの課題を設定し、普及活動を展開してきました。新型コロナウイルス感染症の影響下ではありますが、感染防止対策を講じながら、担い手農家の育成をはじめ、技術指導等による産地育成、6次化、経営指導などに取り組んできました。ここでは、その取組の一部を写真で紹介します。

屋久島農業を支える担い手農家の育成

屋久島農業を担う経営体を育成するため、認定農業者の経営改善支援や複合経営支援、集落営農の話し合い活動等を支援しました。そのほか、税理士、社会保険労務士と連携して経営継承・労務管理等を支援しました。



家族経営協定調印式(4月)



アクションサポートチーム会(随時)



初級簿記研修(6月)



原地区ビジョン会議(マップでの検討)
(随時)



かごしま農業経営相談所を活用した
経営継承相談会(11月)



経営発展研修(10月)

屋久島を創造する次世代リーダーの確保育成

青年・新規就農者の営農確立や技術向上、女性農業者の組織活動等を支援しています。



トレーナー研修(7・10月)



食の文化祭(11月)



新規就農者励ましの会(11月)



新規就農基礎講座(9月)



青年農業者会議(11月)



新規就農者巡回(7月)

屋久島の特性を活かした産地育成

(1) 畑作物の生産性向上



さつまいも病害対策検討会の開催



現地指導(実えんどう)

(2) 果樹の生産性向上



適正着果量モデル園の設置



省力機械活用研修(7月)



幼木モデル園ソルゴーによる台風対策

（3）畑地かんがい等を活用した環境に優しい茶産地育成
栽培・製造技術の改善や安心・安全な茶づくりを支援しています。



ポストコロナ生産体制支援
商品開発支援（5月）



秋整枝研修会(10月)



労務管理研修(1月)

（4）屋久島型放牧による肉用牛産地育成
規模拡大や繁殖牛管理、子牛育成技術の向上を支援しています。



飼養管理状況調査(4月～)



キャトルセンターでの体測調査(4月～)



せり市場での体測調査(4月～)

屋久島の農林水産物を活かした6次産業化モデルの育成

大隅加工後技術研究センターや水産技術開発センター等と連携し、専門家による加工技術研修会や個別相談会を実施し、6次産業化モデルの育成支援を行っています。



Webでの加工技術相談会（10月）



加工技術研修会（11月）



加工技術個別相談会（11月）

今後とも、屋久島町農業者の技術習得及び所得向上に向けて
全力で取り組んで行きます！

令和3年度新規就農者励ましの会を開催

11月11日に屋久島町営農支援センターで屋久島事務所農林普及課主催および熊毛地域農政企画推進会議共催による新規就農者励ましの会を開催しました。当日は、青年農業者育成に尽力いただいている指導農業士、女性農業経営士を始め、青年クラブ員や関係機関など25名が出席し、屋久島の農業を支えていく新たな仲間を歓迎しました。

本年度は、西橋 啓太朗（にしばし けいたろう）さん、西脇 優（にしわき まさる）さん、廣盛 亮治（ひろもり りょうじ）さんの3名の門出を祝いました。

新規就農者の3名からは、就農を志した動機や就農してから日々心がけていること、今後どのような農家になりたいかなど農業経営に対する抱負が語られました。また、地域の方々とコミュニケーションをとりながら、生産技術を磨き、経営安定につなげていきたいと意気込みも語られました。先輩農業者からは、「地域農業の貴重な担い手。農業者一体となって支援していくので、分からないことは何でも相談し、夢に向かって家族と協力して頑張ってもらいたい。」とエールが送られました。

就農された方が早期に経営を確立し、地域農業の担い手として活躍されるよう、農業普及係では、関係機関団体と協力しながら、技術・経営等の支援を行ってまいります。



〈西橋 啓太朗さん〉

肉用牛，露地野菜



〈西脇 優さん〉

施設花き，施設果樹



〈廣盛 亮治さん〉

露地果樹

一番茶の安定生産技術について

令和4年度一番茶の生産が目前に迫ってきました。園揃えや芽だし肥, 病虫害管理を行い, 消費者に喜ばれる茶作りを目指しましょう。3月以降の作業についての概要, 注意点は以下の通りです。

1.被覆

被覆は2～3葉期頃から行い, 中7日程度とします。被覆開始の遅れや摘採の遅れ, 強風による葉傷みに注意しましょう。気温が低い等の影響で被覆の効果が見られない場合には, 芽の硬化程度の進行を注視しながら, 被覆を延長しましょう。



R3.3.8さえみどり(楠川)0.4葉期の様子

2.摘採

茶の生育状況を観察しながら, 早めの摘採開始を心がけましょう。ほ場を巡回しながら, 摘採時期を検討し, 摘採適期となるほ場が最大となる頃に, 工場の処理能力が最大となるよう摘採計画を立てます。白茎の混入を防ぐには, 新芽が折れる位置で摘採を行います。

3.製造

①蒸熱 蒸し葉の色は, 荒茶色沢に強く影響します。蒸熱時間が長くなることによって, 葉色が緑から褐色に変化します。蒸気量は生葉1kgに対して, 0.25～0.3kg程度です。買い手がどのような茶を求めているか, 原料の色を落としていないか注意しながら設定しましょう。



生葉と蒸し葉の色の比較。蒸しすぎると徐々に蒸し葉の色が暗くなる

②粗揉 湿り空気線図を活用して, 熱風温度を設定します。

茶温は体温程度ですが, 硬化していれば茶葉内部から水分が出てこないため, 茶温を上げるよう風量を調整します。風量が多いと, 表面がカサつき, 風量が少ないと, 外観が暗く飴色となり評価を落とします。押しつぶした際に太い茎葉から水分が出なくなったら取り出しましょう。

③中揉 取出し遅れになると, 精揉でつや不足, 伸び不足となるので注意しましょう。

④精揉 分銅で圧力をかけながら水分を押しだし, 表面が乾いてきたら手前に分銅を引きます。茶葉が揃いだしたら, 分銅を戻し始めます。

⑤乾燥 乾燥不足を心配しすぎて長時間乾燥しすぎると, 過乾燥となり, 葉緑素が破壊されることから色沢が飴色となり評価を落とすので注意しましょう。

茶工場の整備は余裕を持って念入りに行い, 欠陥茶の製造や事故の発生がないようにしましょう！

(担当：柚木)

市橋ちよみ氏 農山漁村女性活動功労者賞受賞

市橋ちよみ氏が11月17日に鹿児島県が主催する県農山漁村パートナーシップ推進大会にて、農山漁村女性活動功労者賞を受賞されました。生活研究グループの会長として50周年記念大会の開催や次世代若手女性農業者の育成、東京農大生の農業体験受け入れなどこれまでの功績が認められ、受賞となりました。



（担当：樋口）

藤原恵梨子氏 女性農業経営士認定

藤原恵梨子氏が2月4日付けで女性農業経営士に認定されました。女性農業経営士としての抱負として、茶の生産、経営をもっと改善していくことと、屋久島の女性農業者との接点を増やし、女性農業者同士がネットワークを築き情報交換できることを挙げていらっしゃいます。



（担当：樋口）

日高晋作氏 青年農業士認定

日高晋作氏が2月4日付けで青年農業士に認定されました。平成25年に就農し、平成29年から茶の栽培・加工管理のプロジェクトに取り組んできました。「今後も屋久島の茶業担い手として、仲間とともに茶業振興に取り組んでいきたい」と抱負を語ってくださいました。



（担当：中野）